

医学教育における Faculty Development^{*1}

堀内 三郎^{*2} 奈良 信雄^{*3}

はじめに

ファカルティには、教育機関の構成人員、機構および機能のすべてが含まれる。よって、ファカルティ ディベロップメント (Faculty Development: FD) とは、本来これらすべての発展・改善を目的とする言葉である。しかし、ここでは学習指導者の教育能力開発に焦点を当てる。

今回の版 (2002~2005 年) の 4 年間は、わが国における医学・医療教育の大きな変革期であった。すなわち、卒前教育ではいわゆるコア・モデル・カリキュラムが提示され、共用試験が全国 80 医科大学でトライアルを経て本実施された (2005 年から)。また、卒後教育では卒後臨床研修の必修化がスタートした (2004 年から)。卒前・卒後のこの変革は、FD 活動に大きなインパクトを与えた。後述するが、ワークショップ (Workshop: WS) のテーマも、この流れに沿って、「CBT 問題の作成方法」や「臨床研修指導医養成」などが多く取り上げられた。

本稿では、この 4 年間、わが国で開催された WS を中心に報告する。

1. 医学教育者のためのワークショップ (通称：富士研ワークショップ)

1974 年に第 1 回が開かれてから、毎年 1 回定期的に開催され、2005 年に 32 回を迎えた (通算参加者：1,200 名)。文部科学・厚生労働両省主催、日本医学教育学会・医学教育振興財団後援の

この WS が、常に日本の医学教育のバックボーンになってきたといっても過言ではない。

この WS で一貫して取り上げられてきたテーマは、医学教育の原理ともいべき「カリキュラム・プランニング」である。さらに、新しい医学教育の流れに対応すべく、新たな試みが行われた。第 32 回では、「卒前・卒後の医学教育の整合性」にスポットを当て、「コア・モデル・カリキュラムと医師国家試験出題基準」を資料として、掘り下げた議論がなされた。この WS は、卒前・卒後の指導者が、「カリキュラム・プランニング」という共通の言語で、共通の問題を対等に議論する、本邦で唯一の非常に重要な場になっている。

2. 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ

2001 年からスタートした本 WS は、全国の医科大学・歯科大学の学長、医学部・歯学部の学部長を参加者とした、組織リーダーのための WS である。本 WS のテーマの 1 つは、2001 年に提言された「21 世紀における医学・歯学教育の改善方策について—学部教育の再構築のために—」の進展をそれぞれの立場で検証していくことである。統合カリキュラムの推進、問題探求解決型学習の導入、共用試験の運用、臨床実習の充実など、各大学の成果は順調に進んでいる。今後、各大学の特徴を生かした個性あるカリキュラム作りが大きな課題になるであろう。

3. 全国医科大学・医学部におけるワークショップ

10 年前の 1996 年には、学内 WS を実施している大学は 20% であった¹⁾。2004 年度の全国医学部長病院長会議、医学教育委員会・FD 委員会の実態調査報告書によれば、80 医科大学すべて

^{*1} Faculty Development for Medical Education in Japan

キーワード：ファカルティ ディベロップメント、ワークショップ

^{*2} Saburo HORIUCHI 岩手医科大学医学部生化学

^{*3} Nobuo NARA 東京医科歯科大学歯学教育システム研究センター

表1 全国医学部における学内研修会 (FD) の実態調査報告

FD 開催回数	FD テーマ	FD 開催時間
1回 27(校)	PBL テュートリアル	57 2時間以下
2回 23	アル	57 半日
3回 12	CBT, 試験問題作成	42 1日
4回 11	医学教育全般	31 1.5日
5回以上7	臨床研修・医師養成	16 1.5日以上
	OSCE	16
	クリニカル・クラシフィック	12
	カリキュラム・プランニング	8
	入試	2
	その他	26

で実施されている (表1)²⁾。その内容をみると、テーマは「PBL テュートリアル」が57件、「CBT 問題の作成方法」が42件、「医学教育全般」が31件、「臨床研修」、「OSCE」がそれぞれ16件などであり、かつて学内WSの主流テーマであった「カリキュラム・プランニング」は8件と減少している。開催時間も数時間から半日間と短くなり、開催場所も80%が学内の施設となっている (表1)。

4. 臨床研修指導医養成講習会

本WSは、臨床研修研究会の主催で1996年から行われてきた。臨床研修指導医の養成が目的で、わが国の臨床研修充実のために果たした役割は大きい。この臨床研修ワークショップは、現在、臨床研修病院のプログラム責任者のための講習会に格上げされ、運営されている。

「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」が厚生労働省から出され、臨床研修指導医の養成のため、各種団体が指導医養成講習会を開催するようになった。厚生労働省の調査によると2005年9月現在、その修了者は9,966名となっている³⁾ (表2)。

5. その他のワークショップ

岐阜大学に付設されている医学教育開発研究センター (MEDC) が活動をはじめから5年になる。MEDCのWSでは持込テーマを加えて常

表2 指導医講習会開催状況

主催者	講習会回数	修了者数
団体		
精神科七者懇	32回	1,430人
全自病・国診協	24	949
医師会	32	936
国・国立病院機構ブロック	10	306
公益法人	8	307
都道府県	9	352
四病院団体協議会	6	297
地域医療振興協会	3	76
全国社会保険協会連合会	4	131
全日本民主医療機関連合会	6	135
国	2	51
その他	17	609
病院単独		
医療法人	6	166
公的団体	6	120
自治体病院	7	186
国・国立病院機構	3	88
その他	6	137
大学単独		
私立	59	1,961
国立大学法人	37	1,380
公立	9	349
計	286	9,966

2004年3月18日に発出した「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」にのっとった講習会。2003年6月12日から2005年9月末までの開催状況 (厚生労働省医政局医事課医師臨床研修推進室確認分)

に時流に適したものを選んでおり、「日本の医学教育に新風を吹き込む」という役割を果たしている。

医学系全国共用試験実施機構では、CBTの充実のため「よい客観試験問題の作成方法」のWSを企画し、全国で実施した。

日本医学教育学会の各種委員会が主催するWSも企画運営され、成果を収めている。

文 献

- 堀内三郎, 田中 勲. 医学教育における Faculty Development. 医学教育白書2002年度版, 篠原出版新社, 東京, 2002, p. 109-112.
- 全国医学部長病院長会議医学教育委員会・FD専門委員会. 全国医学部・病院における学内研修会 (FD) の実態調査報告 2004年度.
- 厚生労働省・医師研修推進室調査. 指導医講習会開催状況 (2003.6.12~2005.9.30).